

埼玉県大宮市の大樹さん

特別住民番881号

平成7年11月22日、我が家に初めての赤ちゃんが生まれました。身長51センチ、体重は3570グラムのちょっと大きめの男の子。生まれるまで性別は聞かずにいたので、期待もあってか(?)考えていたのは女の子の名前だけ。そこで、生まれた我が子の顔を見て、名前をあれこれ考えることになりました。



真剣に考える母親の私の横で、本気なのか冗談なのか、夫の口から出てくるのは、某有名スターの名前をひねったものばかり。結局二人で「いいね。」と決まったのが「大樹」でした。下の樹という字は、夫の名前「雅樹」から。夫は男三人兄弟でそれぞれ名前の下に樹という字を使っているの、名付けた両親への尊敬も込めて。

そして、「大」という字には幾つかの想いを込めました。

ひとつは、月並みながら、大きく生まれたこの赤ちゃんが、すくすくと元気に、ますます大きく育ってくれる様に。

ふたつめは、妊娠中に引っ越して来たこの地大宮が、伝統もあり、住み易く、二人共気に入っていたので、その地名をひとつお借りして。

そして最後は、我が家の応援しているJリーグ浦和レッドダイヤモンドズにちなんだ名前にならないかと思案して、大はダイヤのダイで決まり。もちろん生まれたその日には、試合の勝利とエース福田の記録ゴールの祝福を受けました(と我が家では思っている)。

今では妹も生まれて、じきに4歳になります。いたずらもよくするけれど、初めて会うどんな人とでも仲良くなれる大樹です。もちろん妹のこともよくかわいがっています。生き物や自然の好きなやさしい子です。これからも、素直にまっすぐに、たくさんの枝を伸ばしながら、大きく育って行って欲しいと思います。

愛知県蒲郡市の大樹さん

特別住民番887号

お父さんが、お風呂の中で思いついた名前です。

最初はひらめき、その後、大きな樹のようになって、自然と人が集まるようになってほしいという願いを持って決定しました。

スクスクと育っています。(母)



東京都板橋区の大樹さん

特別住民番899号

息子と同じ名前の町があるってなんだかすてきなことですね。

「志が強く、素直に成長して欲しい」と願いを込め名前を付けました。大樹町は、きっと自然のゆたかな所なのでしょうね。いつの日か、息子と同じ名前の町へ行ってみたいねと話しています。(父)



北海道小樽市の大樹さん

特別住民番910号

大樹＝大きな木。大木。
そんな木のように、たくましく。強く。



また、大きな心を持って、人に対して、やすらぎ、優しさを……。そして、皆を包んで守ってくれるような子になってほしい。

ちょっと、大きすぎる思いなのですが、親としては、そんな思いに近づいて育ってほしいと思っております。

京都府宇治市の大樹さん

特別住民番917号

僕に「大樹」という名前がついてから、もうすぐ19年がたちます。父は、僕は生まれるかなり前から、いくつかの名前を考えて手帳にメモしてそこから消したり直したりしたそうです。父の名前は「弘」と書いて「ヒロム」と読むので“ヒロ”をとりたいかっただけです。そして、名前にはそれなりの意味もなくてはいけない(あたりまえ!)というのが父の考え方なので、大きくすくすく元気に育ってほしいという願いを込めて、「大樹」と書いて「ヒロキ」と読むことになりました。大は画数が少なく、樹は画数が多いので、大樹と書いた時に下がどっしりしている印象もあります。



少し残念なのは、今まで誰一人として僕の名前を見て「ヒロキ」と読んでくれたことがないことです。ほとんどの人は「ダイキ」と読みます。だから、いちいち「ヒロキです」というように訂正するのが面倒くさくなってしまっただけで「ダイキさんですか?」と言われても「そうです」と言っていました。でも、この大樹町の特別住民への応募をきっかけにして、自分の名前のことについて考えました。そして、自分の名前に誇りを持って生きるようにしようと思いました。だから、先にあげたようなことを言われたらきっちり訂正するようにしています。僕は、ずっとこの名前に誇りを持ち続けたいと思います。

北海道帯広市の大樹さん

特別住民番918号

僕は昭和58年11月2日生まれの15歳、高校1年生の大樹です。

出生地は当時家族は横浜に住んでいましたので、東京田園調布駅前の総合病院でした。両親は名前をつけるにあたり相当考えた様ですが、母からの話を書くことにしました。両親は命名については姉の時もそうでしたが、字画とか姓名判断等には全く興味がなかったもので、本を読むとか判断師に見てもらおうという事は考えもつかず、二人で考えたそうです。



男の子という事で、最初は父の名前の一字を取り、「〇介というのは」と考えましたが、隣に大介君という子がいるのでやめにしました。次に男性は特別な事がない限り、名字が変わる事がないので、まず名字を大事に、大人になっても自分の周りの全ての人々をまるごと包み込める様な心の大きい人間になってほしい、という親の夢をも込めた名前にと考えました。名字は「清水」きれいな水という意味ですので、その水をたっぷり取り込んで、大きな大きな樹に成長してほしいという事で「大樹」と決めました。両親はその時は思いもせんでしたが、5年後帯広へ転勤となり、しばらく郊外をドライブ中、清水大樹線という道路名の標識をあちこちで目にした時は、本当にびっくりしたとの事です。僕は自分の名前の大安売りだと思いました。幼稚園から高校まで名前からニックネームはつけずらいのか、ずーっと「ひろき」と呼ばれています。

新潟県新潟市の大樹さん

特別住民番925号

“父の願い”

我が家の「大樹」は1995年6月14日の朝に誕生しました。私(大樹の父)は、妻の陣痛が強まった真夜中に病院に行き、望んでいたわけではなかったのですが、成行きで分娩室に入らされて、いわゆる「立会出産」を経験させていただきました。それから早いもので4年が経過し、その日の記憶は少しずつ消えて



いっているのですが、陣痛で苦しむ妻の背中をさすり続けた腕の疲労感と、生まれたばかりの大樹がお医者さんから直々におむつをつけていただいたこと、それとその部屋に差し込む朝日がとってもまぶしかったことだけは、今でもはっきりと覚えています。

「大樹」という名前は、太い根で大地をしっかりと掴み、太い幹から四方に枝を広げ、冷たい雨や夏の厳しい陽射しをさえぎり、生き物を育てていくような、そんな大きな樹のようになってほしいという願いをこめて命名しました。今はまだ、細くか弱い苗木でしかありませんが、歳月を重ねるごとに着実に「大樹」に近づいてほしいと思っています。

“母の想い”

私(大樹の母)の生まれ育った北海道には、とても素敵な大樹があります。いつの日でしたか、北の大地に堂々と、でも何ともいえない優しさを漂わせて立っている緑豊かな「大樹」(おそらくハルニレ)を見ました。

いつかあなたとその樹を北の大地に見に行きたいと思っています。そして、あなたもこの樹のように強さと優しさを備えた、心の広いおとなに成長してほしいと願っています。

兵庫県播磨町の大樹さん

特別住民番926号

昭和61年、ハレー彗星のやって来た年に結婚した私たちは、翌年の夏、ワンボックスカーを買って旅に出た。8月初旬、フェリーにて小樽へ到着。まだ初々しい二人とシャム猫「飛雄間」の行き当たりばったりの北海道旅行の始まりである。積丹半島のウニ井、富良野の花畑、屈斜路湖の露天風呂、知床の大自然に心を奪われながら、果てしない大地を気ままに旅した。



北海道へ渡って8日目。前夜、釧路の居酒屋で、ししゃもとルイベを堪能した私たちは、エビス顔でえりも岬をめざしていた。ところが、当時R336は十勝川付近で通行止め。やむなく、帯広経由でえりもをめざすことにした。途中、池田ワイン城で道草。ますます予定の狂った私たちは、明るい内にえりもに着こうとR236をつっぱしった。街を抜け、家がポツポツと少なくなってきた頃、私たちを迎えてくれた風景は、旅に出る前思い描いた北の大地のシーンそのものであった。地球の裏側まで続いていそうな直線道路に白樺並木。左右に広がる牧草、とうもろこし畑、赤い屋根。窓を全開にし、爽やかな風と光を存分に浴びながら、私はこの旅最高に気分浸っていた。でも、これで終わりではなかった。緑の丘を越えて目の前にとびこんできたのは、光輝くエメラルドの海。私は、ぞくぞくするような快感を覚えた。試飲ワインの飲みすぎで高いびきの妻をたたき起こしUターン。ねぼけまなこの彼女に、通り過ぎた風景をもう一度見せてやることにした。「いったい、ここはどこなの?」と横浜弁の妻。「どっかわからへんけど、ごっつーえーとこやな。」と関西弁の私。方向オンチの妻が懸命に地図をめくり、なんとかここが大樹町ということをつきとめた。

それから11年後の平成10年夏、私たちは、再びここへ戻ってきた。猫の飛雄馬の代わりに、「大樹」と「爽」の息子を連れて。十歳になる大樹の夏休み。名前を頂いた町を、自由研究のテーマにしようと役場を尋ね、「全国の大樹さん募集」の企画を知った。わが家族とこの町の不思議な縁を大切に、成長していく大樹と共に何度でもこの地を訪れたいと思う。(父)

東京都世田谷区の大樹さん

特別住民番945号

大樹 我が家の10歳になる次男は、こう書いて「ヒロキ」と読みます。この度、名前の御縁で、遠く北海道にすてきなふるさとができ、親子共々たいへんうれしく思っております。両親とも、実家が東京世田谷区内の為、ふるさとを持たない子どもたちです。四季折々、今頃大樹町は



どんなかしら、と思いを馳せながら、訪れる日が来るのを楽しみにしています。

さて、大樹という名前の由来ですが、正直な所それほど難しく考えた訳ではなく、字の持つイメージが好きでつけました。結婚18年目を迎える私達夫婦ですが、なぜか主人は結婚する前から、「女の子が生まれるなら、名前は樹里にする」と宣言!? しておりました。現在15歳になる第一子は男の子で、この“樹”という字を付けて、勇樹と名付けました。そして第二子が大樹です。ゲンキ、マサキ、カズキ…数々あがった候補の中で、皆が一番気に入ったのが、大樹という名でした。“樹”という字の持つ、大地に根をはった力強さ、蒼々とした葉を茂らす瑞々しさ、懐に様々な生命を宿らせ育む優しさ、梢の先を空に伸ばすたくましい生命力。そんなイメージに加え、さらに大きく、広い心の持ち主になってほしい。そんな思いで命名致しました。

今の所、健やかな体と心を持って伸び伸びと育ち、サッカー選手になりたいという夢を持って、元気に過ごしております。名前にこめた親の思いはどれ程伝わるか解りませんが、まっすぐな心で歩んで行ってほしいと思います。そして待望の長女には樹里ではなく、沙樹と名付けましたが、我が家の三本の樹の成長を、これからも楽しみにしていきたいと思います。

最後になりましたが、大樹町の皆様、そして全国の大樹さんの御多幸と益々の御発展をお祈り致します。(母)

宮城県河南町の大樹さん

特別住民番948号

全国の「大樹さん」初めまして！ 僕の名前も「大樹」と書いて、“たいき”と読みます。平成10年1月12日生まれなので、大樹町とは70歳も離れています。僕の名前はパパとママと、2つ上の優奈お姉ちゃんが付けてくれました。2792グラム、ちよっぴり小ぶりで生まれた僕が、大きな樹木のように強たくたくましく、そして人に安らぎを与えるような元気で優しい男に育って欲しいという願いが込められているんですよ。読み方



は、“だいき”にしようか、“たいき”にしようか迷ったパパとママが、お姉ちゃんに選んでもらったそうです。当時2歳になったばかりのお姉ちゃんは、生まれたばかりの僕に、毎日「たいき」と話しかけてくれました。こうして命名されて半年過ぎ、順調に身長も体重も増え寝返りもうてるようになった頃、愛知県に住むおじいちゃんから一通のFAXが届きました。「大樹さん募集」というタイトルのFAXに、パパとママはうれしくて早速応募してみたいです。そして送られてきた町のパンフレットを見て更に喜んでいました。だって僕と同じ名前の町が自然がいっぱいで楽しそうな施設やイベントもいっぱい、とっても素敵な町だったから。パパもママもお姉ちゃんも、ますます「大樹」という名前が好きになったみたいです。僕も名前負けしないように、元気で皆に愛される人になりたいです！ 大樹町も、いつまでも皆に愛される素晴らしい町でありますように。いつか絶対に皆で行くぞ！ 大樹町!!